令和４年度　学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立菰野高等学校 ）

１　目指す姿

(1) 目指す学校像		○地域から愛され信頼される学校
(2)	育みたい児童生徒像	○自分を大切にし他者を思いやり、正しいルールやマナー、言葉遣いを身につけ、自ら明るくさわやかな挨拶ができる生徒 ○主体的に学び続ける資質・能力を身につけ、郷土を愛し地域や社会を支える意欲を持つ生徒
	ありたい教職員像	○生徒一人ひとりが夢や目的に向かって真剣に取り組めるよう、目標や方法を共有し、常に連携・協働する教職員 ○授業力・生徒指導力をはじめとする教育力向上のために、常に学び合い、学び続け、生徒や保護者、地域の方々から信頼される教職員

２　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生　徒】学習、部活動ともに楽しく充実した高校生活 【保護者】安心・安全な学校、卒業後の自立に向けた学力の定着と社会性の涵養 【地　域】安心・安全な学校、地域社会との連携・貢献、部活動の活性化 【企業等】学習意欲・基礎学力・体力・コミュニケーション能力など、質の高い人材の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【保護者】教職員の一層の資質向上 【地　域】地域に貢献できる人材の育成 地域の行事等での生徒の活躍 【企業等】質の高い人材の育成	【保護者】教育活動への積極的な参加 【地　域】連携による生徒の社会経験の機会増加 【企業等】教育活動・生徒への理解促進
(3) 前年度の学校関係者評価等	・コロナ禍にあっても、昨年度に比べて、生徒が活躍する地域との交流や創意工夫した学校行事により、生徒の成長につながっている。 ・総勤務時間の縮減は、次代を担う若者に魅力ある教員像を示すことでもあるので、しっかりと取り組む必要がある。 ・その一方で、生徒一人ひとりの成長や自己実現のためのきめ細かい取組は、引き続き継続すべきであることから、地域の方々や小・中学校と連携することがより必要となるのではないか。	
(4) 現状と課題	教育活動	基礎力診断テストの活用やきめ細かな生徒面談・教育相談等により、生徒の課題が明らかとなる一方、アクティブラーニングの導入などの授業改善にも取り組み、基礎学力の向上・定着が進み、部活動や生徒会活動をとおした学校活性化も進んでいる。 一方、学習意欲が低く高校生としての基礎学力が十分でない生徒や部活動、学校行事等に積極的に参加できない生徒が一部に存在する。また、多様な教育ニーズを抱えた生徒、高校生活を送るうえで特別な支援や配慮を必要とする生徒も在籍しており、それぞれの生徒の状況に応じて、保護者や関係機関等と連携しながら、きめ細かい対応を行う必要がある。
	学校運営等	「目指す学校像」や「育みたい生徒像」は明確で教職員間で共有されており、学校改革に教職員が一致して取り組む雰囲気がある。一方で、教職員数が少ないため、校内における教科を中心とした授業研究の活性化やバランスのとれた校務分掌の編制、教職員の多忙化解消に取り組む必要がある。また、教職員数が少ないことにより分掌等での引継も大きな課題である。 今後も短期・中期・長期のＰＤＣＡサイクルを工夫するなど、学校改革の取組を組織的に継続する必要がある。

３　中長期的な重点目標

教育活動	○本校生徒が３年間で身につけるべき学力について研究を進め、カリキュラム・マネジメントの考え方に基づく学校改革を進める。 ○キャリア教育、人権教育、道徳教育、主権者教育にトータルに取り組み、夢や希望をもって自立し、社会に貢献できる生徒を育てる。 ○「三重県部活動ガイドライン」を踏まえ、部活動の適正な充実を図ることで、部活動を通じた生徒一人ひとりの資質向上と学校のより一層の活性化を目指す。 ○地域や企業、大学・短大・専門学校等との連携を進め、生徒が教育活動に取り組むことができる場を広げるとともに、卒業後の進路の拡充を目指す。
学校運営等	○年間を通して全ての教職員が協力して授業改善に取り組めるよう、職員研修やＯＪＴ等の職場環境の充実を図る。 ○ベテラン教職員がそのスキルや経験を活かし、若手教職員がそのパワーを活かしながら教職員としての資質を向上できるような組織作りに努める。 ○重要な課題についての組織的な取組を強化し職務の平準化を図ることにより、教職員の総勤務時間縮減を進める。 ○地域と学校との相互理解を深め、地域の行事への生徒や教職員の参加や学校運営への地域の方の提言、応援の機会を増やす。

４　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程	新しい学習指導要領の実施へ向けて、これまで取り組んだ「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究」の成果を踏まえ、生徒の現状や課題を的確に把握したうえで、学力向上に向けたカリキュラムの研究・検討に引き続き取り組む。	（年度末および適宜記載）	◎
学習指導	学力向上委員会を定期的に実施し、生徒の学力向上をより一層図るため、それに資する具体的な提言を行う。また、校内のＩＣＴ化に対応した教科指導をはじめとする教育活動が実践できるよう、教職員のスキルアップに取り組む。		※
進路指導	３年間を見通した計画により、年間を通して進路に関するガイダンス・講話・ＬＨＲ等を行う（1 学年６回、２学年８回、３学年 12 回）。 ３年生に対して全教職員による面接練習を行う。		※
地域に根ざした教育	生徒が地域の方々や職業など多様な人々と関わりながら、地域の産業等の協力を得て、地域の活性化や課題解決に取り組む教育実践に着手する。		◎
生徒指導 人権教育 特別支援	年間を通して、生命を大切にし、いじめ・暴力を根絶するための教育に取り組む。また、学年や分掌を超えて、個々の生徒に対応できるよう、生徒指導部・教務部・学年・人権教育担当・特別支援コーディネーターによる情報共有会議を週１回、実施する。		◎

	生徒会を中心に朝の挨拶運動を行う。また、保護者も参加するマナーアップ運動を行う。		
環境教育	学習環境を整備し、社会的規範意識や環境問題への興味関心を醸成するため環境美化月間の取組を行う。（年２回）		
防災教育	厳しい状況を想定した防災訓練を実施する（年間２回以上）。また、防災訓練の状況も踏まえて、防災計画の見直しを実施する。		◎
部活動指導 生徒会活動	全国高等学校総合体育大会や全国高等学校総合文化祭をはじめとする大会やコンクール等への出場を目標に部活動の活性化や競技力の向上を図る。 また、体育祭や文化祭をはじめとする生徒会行事において、「する」・「みる」・「支える」など個に応じた関わり方を通じて、豊かな人間性を育むため、生徒会活動の充実を図る。		

改善課題
（年度末に記載）

（２）学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	校務分掌間、校務分掌内での校務の組織的取組の強化と個々の教職員の校務の平準化に向けて、１学年４学級規模の全日制普通科高校としての組織モデルを検討する。	（年度末および適宜記載）	◎
職員研修	授業公開・検討会を含む授業改善のための研修を実施する（２回以上）。また、先進校へのベンチマーキングを行う（２校以上）。		
情報提供	学校関係者・保護者・地域の方・地元中学校等への情報提供をきめ細かく行うため、学校ホームページの更新（月１回以上）とともに、報道機関に対する情報提供（年６回以上）を積極的に行う。 中学生やその保護者に、本校教育活動への理解を促進し、生徒募集に繋げるため、情報発信の仕方や機会の充実を図る。		◎
地域との連携	菰野町唯一の県立高校としての役割を自覚し、生徒・教職員ともに地域の行事等に積極的に参加する（年間８回以上）。		◎

職場風土の醸成	期首・中間・期末面談も活用し、教職員と校長のきめ細かな意志疎通を図る。また、コンプライアンスの遵守を徹底するため情報共有を図るとともに、風通しがよく相談しやすい職場風土を醸成する。		
総勤務時間の縮減	教職員が心身の健康を維持し、意欲的に、かつゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減し、休暇の取得を促進するなど、総勤務時間の縮減を図るための具体的な取組を進める。 【活動指標】 ・一人あたりの月平均時間外労働　15.0 時間/月以下 ・年 360 時間を超える時間外労働者数　0 人/年 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数　0 人/年 ・一人あたりの年間休暇取得日数　30.0 日/年 【成果指標】 ・設定した日の定時に退校できる職員の割合　90.0%以上 ・予定どおり休養日を実施できた部活動の割合　95.0%以上 ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合　90.0%以上		

改善課題
（年度末に記載）

5　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

6　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）
学校運営についての改善策	（年度末に記載）